

令和7年度岡山県立玉島商業高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年6月17日（火）14:00～16:30

場 所：会議室（管理棟2階）

出席者：7名（委員11名中）

1 開 会 （任命書机上配布）

- (1) 校長挨拶
- (2) 学校運営協議会委員 自己紹介

2 会長、副会長選出および挨拶

3 授業見学

4 自校の現状と課題

- (1) 令和7年度の教育活動について
- (2) 令和7年度学校評価書等
- (3) 令和7年度スクールポリシーの承認と次年度の方向性

本校のスクールミッションは、商業高校として地域と連携し、地域課題に対応できる人材を育成すること。授業だけでなく、学校行事や生徒会活動、資格取得などを通じて、生徒の自己肯定感や達成感を育み、社会で力を発揮できる人材の育成を目指している。スクールポリシーについては、保護者、生徒、中学校、役所、大学等から意見を聞いて決定したものであり、令和8年度の100周年までは現状のままで進めていきたい。

- (4) 教科書の選定に関する方向性や観点について

5 意見交換

テーマ「100年先の未来へつなぐ玉商、地域とともに成長する学校として、私たちが継続的にできること。」

委員A

生徒たち自身が「自分たちならこうお祝いしたい」と考え、100周年を祝う独自のアイデアを出してくれることを期待している。そうした生徒発信の企画によって、地域や他県にも玉島商業高校の魅力のアピールできる良い機会になると考える。これまでは学校の節目を先生やOBなどが祝うもので、生徒はあまり関わらず、「そうなんだ」と受け身で捉えることが多かった。しかし今回は、生徒自身が「自分たちで100周年を祝おう」と考えていること自体が、とても意義深く素晴らしいことだと感じている。

委員B

現在の3年生は卒業するため、100周年の主体は2年生になるべきだと考える。すでに記念事業として、野球の記念試合も企画されており、2年生が中心となって準備を進める流れができつつある。たとえば、地元の施設でミュージカルを行うなど、生徒自身の発想で自由に企画してよいの

ではという意見もある。ただし、現状では100周年の準備はPTA・教員・同窓会が中心で進められており、生徒の活動や意見が外から見えにくいのが課題。来年の本番に向け、時間的余裕が少ない中で、生徒の主体的な動きがもっと見えてほしい。100周年の準備は夏前には方向性を定め、9月には本格的に始動しないと間に合わないという危機感がある。現状では生徒会だけが動いているように見え、一般の生徒まで活動が広がっていない印象がある。

委員A

そのため、例えば各学年・クラスから3人程度を選出して、生徒会と一緒に企画会議に参加させる方法はどうか。最初は発言が少なくても、「やってみたいこと」を1人、数案ずつ発表することで、アイデアが広がり、より多くの生徒を巻き込むことができるのではないか。

委員C

生徒自身が「100周年を祝いたい」と心から思える気持ちを育てることが最も重要であり、そのためには教員の働きかけが不可欠。学校の歴史を深く学ぶのは難しくても、これまでの活動や地域とのつながりを知ることを通して、学校への誇りを育てることが必要だと感じる。

また、情報が生徒の末端まで届いていない現状があり、活動の見える化(報告会やプレゼンなど)を行うことで、意識づけができるのではないか。理想は生徒主導の実行委員会ですが、現実的には難しいため、まずは学校の良さや取り組みを知る機会を設けることが大切だ。

委員D

現在の3年生や1年生が、100周年の活動にどう主体的に関わっていくのかが重要だと考えている。3年生には「考える」だけでなく、実際に活動に関わってもらい、自分たちのイベントとして積極的に取り組んでもらうのが良いのではないか。また、地元出身者だけでなく、出身に関係なく楽しめる記念事業にするために、さまざまな人の協力を得て、楽しく進めていくことが大切だ。

委員E

情報発信にはOBなどのネットワークを活用すべき。式典は大人の都合もあり、形式的な部分が避けられないこともあるが、生徒主体の自由な企画も別で用意することが大切だ。また、生徒が学校の歴史を自分で調べ、知る機会を持つことが重要であり、それによって学校への理解や誇りが深まるのではないか。形式にとらわれず、生徒が主体的に関わる場を設けることが必要ではないか。

委員F

本日の議論を踏まえ、今後は校内でも継続的に検討していく必要があると感じている。生徒が本当に自分たちの意思で100周年を祝うためには、学校内での主体的な動きが必要であり、現在のままでは不十分だという認識もある。また、日曜に行われた大人の実行委員会でキャラクター紹介などがあった。今後もその都度しっかり情報をフォローし、生徒と共有していくことが大切だ。

委員G

100周年に向けた大きな方向性としては、生徒の「やりたいこと」を中心に据えた式典や活動の実現が柱となっている。その実現には、生徒有志による実行委員会の存在が重要であり、彼らが「意

見を出す・実行する」だけでなく、校内への情報発信を通じて他の生徒を巻き込む“つなぎ役”になることを期待している。そのためには、教員の関わりと支援が欠かせず、生徒の発信をどう仕立てていくかが鍵となる。発信の内容としては、地域とのこれまでの関わりや学校の歴史・成り立ち、現在の地域の方々とのつながりなどが重要な題材になるのではないか。また、これまでの活動やSNSでの情報発信などが既に蓄積されており、それらを活用することが今後の強みになる。

6 連絡事項・その他

次回の日程 第2回 11月～12月の予定

7 閉会